

郷の集い

発行 芸文会
編集責任者 高野久
印刷所 久野印刷

御卒業

おめでとう

元川

清

六ヶ年の風雪に耐え、螢はなむけとして、お聞しし雪の功を積まれて、この度卒業される二十三名の皆さん、誠におめでとうございませう。本人は勿論、御両親のお喜び、いかにばかりかとお察し申し、共々お祝い申し上げます。

皆さんは、この六年間、先生方から色々お習いし、身につけた、初歩的・基礎的な知識・技能を充分發揮出来るようになって、幼童の間は、十三、四才にもなり、学問に志した上にて、此の心毛ほどにも残りてあるときは、何事も上達いたさず……十一、三才にて母に別れ、父にいとまごいして初陣など致し手柄功名をあらわした人物も数あれど、そのみな稚心なき故なり、もし稚心ならば、親のうでにまじりにやる。まじめさなければ、もの足りなく、充分ではないと考えられます。そこで私はみなさんに「稚心を去れ」と云う言葉を

とか、俗にいう「わらびし心」と云うことではないかとおもいます。この言葉は郷土福井の生んだ維新の英雄、橋本左内先生が、十五才のとき書かれた書物啓発録の最初にかかげられたもので、「稚心を去れ、稚心とはおきな心と云うことにて……、とかく母の膝下に近づき、事々欲するに近づく、皆幼童の水くさき心より起ることにして、幼童の間は、いかに、幼直さず次の出発を意味するものであることを考え、喜ぶの中に自分の進むべき方向を定め、その目的に向かって、自分のことは自分で……自主的に計画を立てて……他人の援助をたのみせず、独立歩歩、百万人といえども我が行かぬの気概をもつて突き進んでいかれることを切に願っています。おめでとう……。

一人歩き

六年担任 柳原真

皆さん、卒業おめでとうことです。ここに自分の足で歩くという努力が必要なのではないかと、三年間の世話をしたもの何一つこれと云うことが出来ませんでした。

皆さん、卒業おめでとうです。ここに自分の足で歩くという努力が必要なのではないかと、三年間の世話をしたもの何一つこれと云うことが出来ませんでした。

皆さん、卒業おめでとうです。ここに自分の足で歩くという努力が必要なのではないかと、三年間の世話をしたもの何一つこれと云うことが出来ませんでした。

卒業特集

小学校時代の思い出

前担任 林隆子

私の小学生の頃は、一、二年が、男女共学で、ほっそりとしたやさしい女の先生が受け持ってくれたことだった。三年になると、男女別々の組に分かれた。先生は山田先生という女の年の顔が目についた。小学生時代のことも楽しかったと今でも思うのは、その先生と通して、四年、五年であつた。とても絵が好きで、大きな油絵の道具箱を肩にかけ、いつも写生に出かけた。

卒業する子に想う

北本堂 篠崎善子

礼を申し上げずにはおられない。子供がなかつた時、代はいかにも自分の力で成したかのように思つた。長たのうらやましい姿がついて、この間の様に思えて、今日迄の間に、初めて社会人となるまで、の長い間教育を受けた諸生方、又長い年月であり、生方の御努力と両親の苦労があつたけれど、休む事なく自信と勇気をもって諸先生の教えを守り、親の恩を忘れずに歩みつづける事を望み、やがてはその努力により立派な一社会人となり、一つでも多く社会に貢献する事の出来る人間となつてくれる事を切に望みます。

わが子の卒業

斉藤卓美

私が妻がして我が子三人が長い間学んだなつかしい学校とも、もうこれで最後だと思つて何となく淋しい感じがする。私達の子供時代とは格段の差がある事と思う。何か安心して子供の希望をかなえてやりたい気持ちである。

この時代に、私が子Aの役員の方々のみなさん、みなさん御苦労の御蔭で今更年ら感謝の気持ちでいっぱいである。

この学校を子供と共に去らなければならぬ私である。この学校を去る時、再び四十年前の気持ちをはなれたいと思ふ。



